豊中地区研究交流会の10年

＼分野を超えた知の交流の軌跡／

研究交流の発足と発展

2013年10月の「未来研究イニシアティブ※1」講演会での出会いをきっかけに、法学研究科の故 田中仁教授 (当時) と理学研究科の豊田岐聡教授は、中国の環境問題という共通の関心事項を発見し、研究交流が始まりました。

翌2014年3月に開催された報告会での田中教授の発表「21世紀課題群と中国」を契機に、豊田教授が取り組むPM2.5測定研究との連携が開始され、同年10月には豊中キャンパスにて、日中国際会議「東アジア“生命健康圏”構築に向けて：大気汚染と健康問題を考える」を共催し、両教授による文理融合の取り組みは加速しました。

ここに、2015年、法学研究科の北村亘教授が加わり、研究交流の輪が広がり始めました。

※1 本学の未来戦略を推進する方策の一つとして、大阪大学ならではの基礎研究の推進や、国家的課題解決に向けた研究にイニシアティブを発揮するための新たな研究分野の創出を目指し創設された本学の支援事業。2013年9月に11事業が選定された。

「まちかねCAFÉ」の設立と「豊中地区研究交流会」

文理融合のためには、まず「お互いを知る場」が必要であるという考えのもと、2016年9月に「成果よりも相互理解」を重視した対話空間「まちかねCAFÉ※2」が設立され、研究交流の基盤が整いました。

この活動を契機として、社会課題解決に向けた分野横断的な協力や、基礎研究重視の産学共創を目指し、同年12月20日に「第1回大阪大学豊中地区研究交流会」が開催されました。

豊中地区研究交流会は、豊中キャンパス内の研究者が文理の垣根を超えて交流する場としてその後も毎年開催され、参加部局の広がりとともに、知の交流の場として発展し続けています。

（理学研究科教授 水谷泰久）

※2 文系と理系の研究者それぞれ1名ずつが発表を行い、意見交換を行う会。文理の枠を超えた研究課題や取組の可能性について、ブレーンストーミングも行う。2025年10月には第48回が開催された。

年表

2013年10月-	未来研究イニシアティブ・キックオフ講演会 **理学研究科の豊田岐聡教授と法学研究科の故 田中仁教授(当時)の出会い**
2014年 3月 -	未来研究イニシアティブ・報告会 **中国のPM2.5というキーワードで両教授の研究交流開始**
2014年10月-	東アジア“生命健康圏”構築に向けて：大気汚染と健康問題を考える**日中国際会議** 両教授のプロジェクトによる**共催**（豊中キャンパスにて）
	～その後も、法学研究科がホストのOUFC*セミナーなどを通じて交流～ *Osaka University Forum on China
2016年 9月 -	**『まちかねCAFÉ』**の誕生 **文理融合の対話空間**・ 成果よりも**相互理解**を重視
2016年12月-	**第1回『豊中地区研究交流会』の開催** 豊中地区にある文系部局と理系部局の分野横断的な協力や、基礎研究重視の産学共創を目指す交流の場
2018年 1月 -	第2回 豊中地区研究交流会 ◀2017年8月「豊中地区研究交流会委員会」発足
2018年12月-	第3回 豊中地区研究交流会
2019年12月-	第4回 豊中地区研究交流会
2020年12月-	第5回 豊中地区研究交流会
2021年12月-	第6回 豊中地区研究交流会
2022年11月-	第7回 豊中地区研究交流会
2023年12月-	第8回 豊中地区研究交流会
2024年11月-	第9回 豊中地区研究交流会
2025年12月-	**第10回 豊中地区研究交流会**

◀2022年度**大阪大学賞**受賞
“部局URAの連携による大阪大学豊中地区研究交流会の企画運営と異分野交流支援”

◀10周年記念インタビュー＜第1部＞より抜粋（2025年9月18日実施）

インタビュー＜第1部＞の全貌はこちら▶

田中先生は、真面目だけれど大らかでもあって、理系のやり方を導入しようと強く思ってくれて、何かうまく走り出したんですよね。
[by 豊田教授]

田中教授と豊田教授が高校の同窓生であったことも交流の促進に！

全く文系に興味がなくて、文理融合も何も考えていなかった。でも田中先生と一緒にやり始めて、文系の先生の本音、“こんなことに興味を持ってやっています”というのを聞くと、実に楽しい。これは皆さんにも味わってもらいたいと思うようになりました。
[by 豊田教授]

法学研究科には、“研究者の学園祭”みたいなもので、他の人の研究を知るいい機会じゃないですか？と報告した覚えがあります。そうしたら皆さん“学園祭か…”とおっしゃって。そのような話でまとまっていきました。
[by 北村教授]

＜豊中地区研究交流会の基礎データ＞

参加部局名	部局数	ポスター発表数	参加者数	会場	世話部局	開催年度
理学研究科、法学研究科、基礎工学研究科、経済学研究科、文学研究科、言語文化研究科、高等司法研究科、サイバーメディアセンター（現D3センター）、全学教育推進機構、COデザインセンター、総合学術博物館（現ミュージアム・リンクス）、国際公共政策研究科、国際教育交流センター、附属図書館、医学系研究科（豊中）、量子情報・量子生命研究センター、マルチリンガル教育センター、キャンパスライフ健康支援・相談センター、人文学研究科	第1回 11	88 (+講演9)	263	大阪大学会館	理	2016 (第1回)
		73	241	理学J棟南部ホール 基礎工学国際棟	基	2017 (第2回)
		51	243	理学J棟南部ホール 基礎工学国際棟	法 文・経	2018 (第3回)
		51	212	基礎工学国際棟	理	2019 (第4回)
		31	138	オンライン	基	2020 (第5回)
		42	162	オンライン	法	2021 (第6回)
		42	174	大阪大学会館	理	2022 (第7回)
		43	139	基礎工学国際棟	基	2023 (第8回)
		43	211	基礎工学国際棟	法	2024 (第9回)
	第10回 17	41	-	基礎工学国際棟	理	2025 (第10回)
		計505				

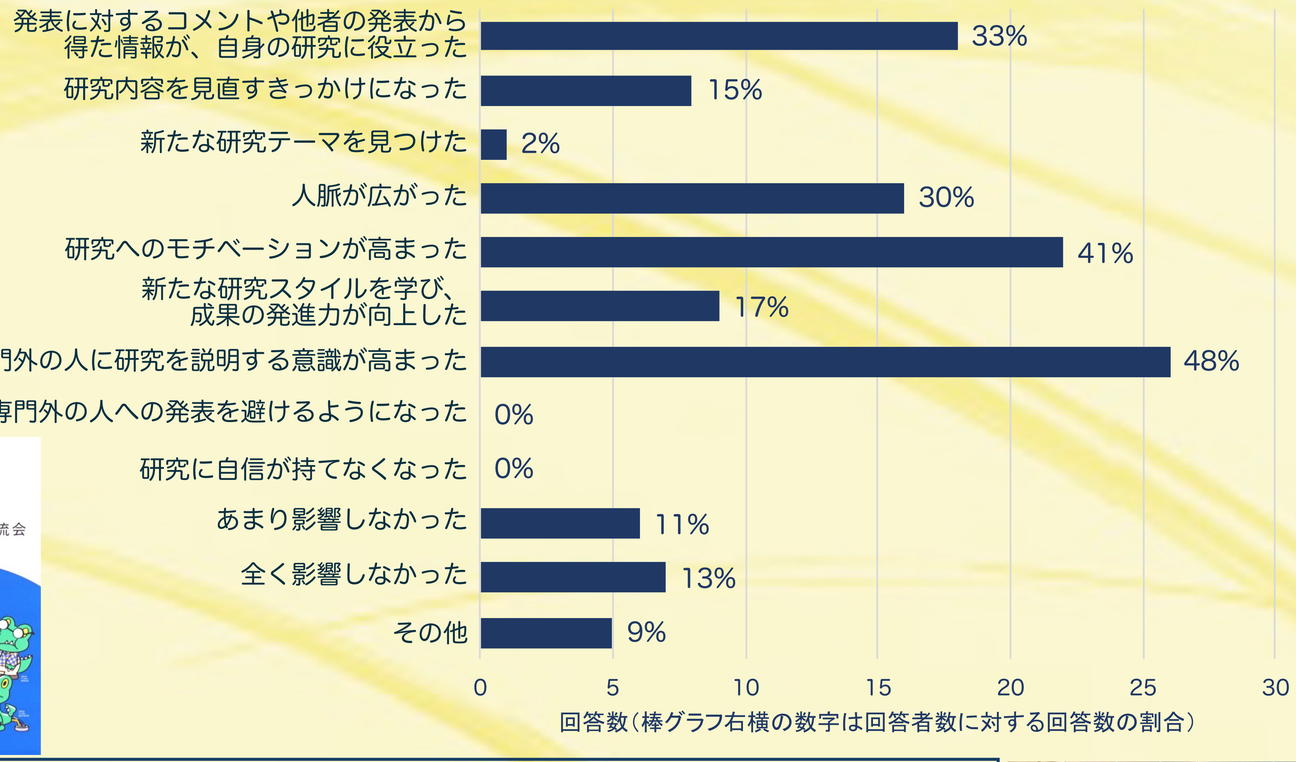
＜財源＞2016-2018：大阪大学知の共創プログラム経費
2019-2025：大阪大学事項指定経費

各回の実施報告はこちら▶

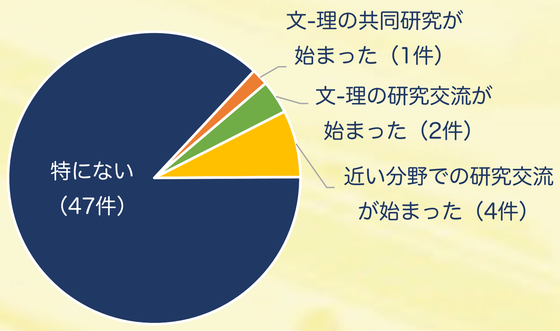
過去の発表者に対するアンケート

過去の発表者のうち、メールアドレスが分かる297名に依頼し、54名から回答を得た（実施期間：2025年9月25日～10月9日［回答率：18.2%］）

① 本研究交流会での発表はその後の研究活動にどう影響しましたか？（複数選択可）

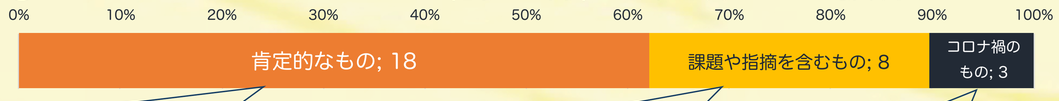


② 本研究交流会をきっかけとして、共同研究や研究交流は始まりましたか？（複数選択可）



6件の研究交流に加え、**文理融合の共同研究が1件始動！**
第1回での交流から9年を経て共同研究へと発展

③ メッセージやコメント（計29件）の分類および抜粋



- 新たな観点から研究を見直す機会をもらった
- 作成したポスターが、その後も自分の研究を説明する上で役に立っている
- 他分野の研究や手法を知る機会で、勉強になる
- 貴重な機会であり、短期的な成果が見えなくても、続ける意味や価値がある
- 0(ゼロ)を1(イチ)に変える可能性を秘めている
- 研究のみならず、様々な交流のきっかけになる
- 情報交換だけでも十分に有意義 etc.

- 業績としてほぼ無価値
- 発表者以外の参加者が少ない
- 限られた人数の中で、共同研究の相手を探すのは難しい
- 本来の業務を置いてまで参加できる状況にない
- マンネリ化しない工夫が必要
- 若手だけで話すセッションがあってもいい etc.

- Remoを使った新しい発表形態を知ることができた etc.

今後の課題

- 継続第一
- 学生の参加促進
- 豊中地区の部局が広く協力し合える「文理融合・分野横断のプロジェクト」の発掘

無理のない運営が大切

次世代の人材育成

自然発生的なものが理想

豊中地区研究交流会の風景（左: 2022年開催 第7回、右: 2024年開催 第9回）

より詳しい内容は以下の記事よりご覧ください

豊中地区研究交流会の10年：分野を超えた知の交流の軌跡（本ポスターPDFと概要）

10周年記念インタビュー＜第1部＞豊中地区研究交流会 誕生の経緯

10周年記念インタビュー＜第2部＞豊中地区研究交流会の現在、そして未来

◆◆◆ 制作：豊中地区研究交流会 幹事部局URA（理学研究科・法学研究科・基礎工学研究科）2025年12月5日 ◆◆◆